

### ③ピアスタッフの育成と活用

#### ■ リスタートにおけるピアスタッフの活躍

不登校やひきこもり経験者、発達障害の子を持つ母親など。  
緊急雇用対策事業を活用しスタッフとしてを採用予雇用。新たに三名の利用者定。  
「声をかけられることはものすごいチャンス、すごくありがたいと思う」(ピアスタッフAさん)

#### ■ ピアスタッフによる支援の良さと課題 (スタッフの自己分析)

- ・引きこもりの経験が支援対象者との距離を縮めることに有効に働く
- ・対象者と家族の理解が深まるように、家族に対しても経験を通じた意見を伝えられる
- ・支援対象者へ感情移入してしまい、必要な助言等がしにくい場面がある
- ・ベテラン支援員に2回同行、次から独り立ち。自分で考えてやっていくしかないが...

#### ■ 積極的訪問支援ではピアスタッフの強みを発揮しやすい (侵襲性を感じない、共通点が多く話しやすい、身近なモデルになる)

相手が望んでいないところに入っていくので、積極的に自分のことを話して自分を知ってもらう

人間不信からひきこもりになったAさん: 今も人間関係を急にリセットしたくなる。しみついている。  
一般社会には警戒心があり、なくなるとは思えない。自分は運がよかっただけ。  
だから出会いが大切。一本の電話を相手にかけることの重みを感じている。

他者を支援する仕事を通じ自分に向き合い、社会とのつながりを回復していく  
※支援員に求められることはセルフコントロール、覚悟、受容、依存させない支援 (代表)

研修生②⑦  
特定非営利活動法人 リスタート

## アウトリーチ実地研修の学び

NPO法人 ふらっとコミュニティ



# 実地研修 NPO法人 リスタート

<http://www.restart.ecweb.jp/profile/index.html>



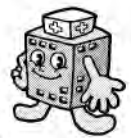
岡山県

H5～「ひきこもり、不登校状態」にある  
 青少年・児童に訪問支援開始  
 H10ボランティア団体 岡山ひかりクラブ  
 H15～ NPO法人 リスタート  
 訪問支援  
 集団支援  
 短期集中支援  
 寮制支援 など



## 1/20～1/31 研修内容

- ▶ 若者サポートステーション 3か所  
 岡山市、倉敷市、津山市  
 →就職支援セミナー参加
- ▶ 若年無業者集中訓練型プログラム事業  
 →山陽ハイツ施設見学
- ▶ ひきこもり地域支援センター  
 →ピアスタッフよりひきこもり時の話を聴く
- ▶ アウトリーチ  
 →6件 同行訪問
- ▶ 岡山市こころの健康センター  
 →ひきこもり対策について話を聴く



## ひきこもり地域支援センターの概要

### 課題

- ①ひきこもり本人や家族が十分に相談できずにいるのではないか。
- ②関係機関のネットワークが十分に形成されていないのではないか。
- ③本人や家族にひきこもり施策等の情報が届いていないのではないか。

各都道府県・指定都市に、ひきこもり本人や家族等からの相談等の支援を行う「ひきこもり地域支援センター」を整備。

○「ひきこもり支援コーディネーター(社会福祉士、精神保健福祉士等)」を置き、次の事業を行う。

### ①第1次相談窓口

ひきこもり本人、家族等からの電話・来所・訪問等による相談に応じるとともに、対象者の状態に応じて、医療・教育・労働・福祉などの適切な関係機関へつなげる。

### ②他の関係機関との連携

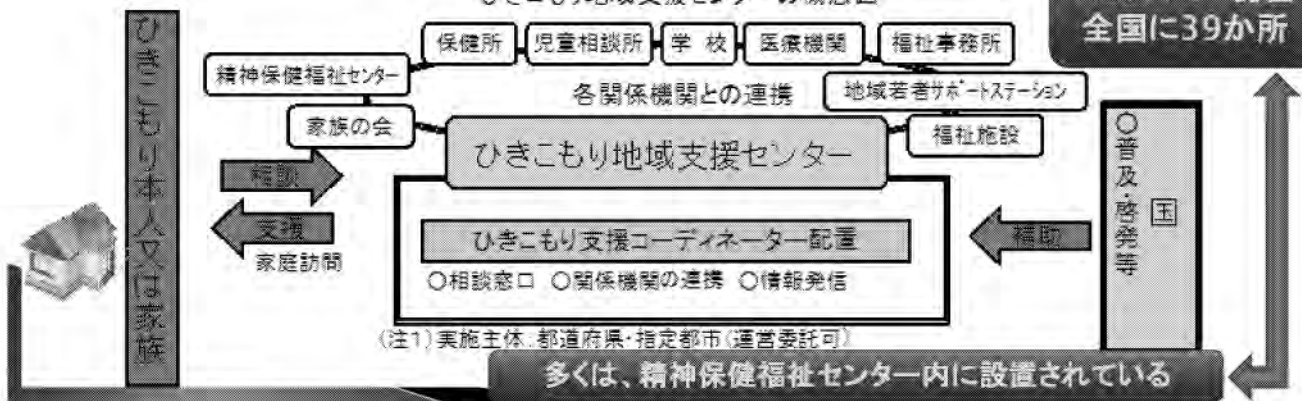
対象者の状態に応じた適切な支援を行うため、関係機関からなる連絡協議会を設置し、情報交換等各機関間で恒常的な連携を図る。

### ③情報発信

リーフレットの作成等により、ひきこもり問題に対する普及啓発を図るとともに、地域におけるひきこもりに係関係機関・事業紹介などの情報発信を行う。

### ひきこもり地域支援センターの概念図

H25.4.8 現在  
 全国に39か所



岡山市こころの健康センター  
岡山市ひきこもり地域支援センター

一次アセスメント  
精神科医、保健師、  
臨床心理士、  
精神保健福祉士

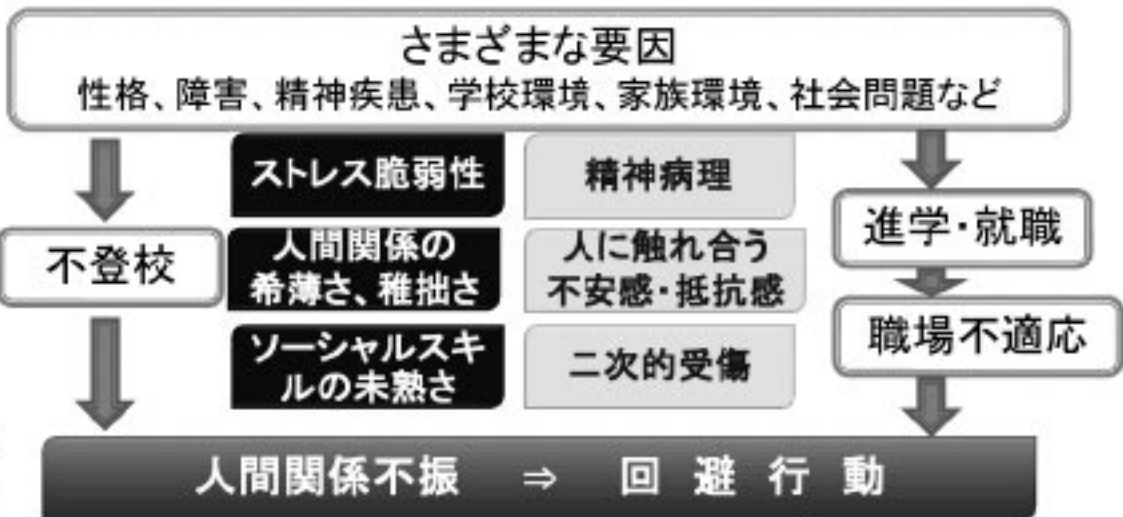
相談支援、就労支援、社会参加支援、  
ひきこもりサポーター派遣、普及啓発、  
関係機関との連携、支援従事者研修



電話相談 約700～800件 来所 約400件 訪問 約20件  
 ・ひきこもり者の割合：精神疾患1割、知的障害1割、  
 発達障害(疑い含む)6～7割  
 ・ひきこもり者の年齢：20代7割、10代1割、40代1割、30代  
 1割  
 ・ひきこもり者の性別：男性7割、女性3割

NPO法人 リスタート  
ひきこもり地域支援センター 受託  
就労支援 社会参加支援  
普及啓発 ひきこもり支援従事者研修

NPO法人 リスタート  
・有料アウトリーチ  
・サポートステーション  
2回まで無料



厚生労働省

**ひきこもり**：「様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、  
家庭外での交遊など)を回避し、原則的には、6カ月以上にわたって概ね  
家庭にとどまり続けている状態(他者とかかわらない形での外出をしてい  
てもよい)を指す現象概念である」・・・ 70万人  
 第1群：統合失調症、気分障害、不安障害など (精神病)  
 第2群：広汎性発達障害、知的障害などの発達障害  
 第3群：パーソナリティ障害(その傾向)、身体表現性障害 (非精神病圏)  
 その他(社会的ひきこもり)・・・46万人

内閣府調査  
1～3群  
24万人

長期化 → 孤立 → 未治療 → 親の高齢化 → 経済的問題 → 孤独死

# ニートの分類

2004年5月17日産経新聞

- ▶ ヤンキー(非行)型:反社会的で享乐的。「今が楽しければいい」というタイプ  
中卒、高校中退が多い。親も豊かとは言えない。
- ▶ ひきこもり型:社会との関係を築けず、こもってしまうタイプ  
不登校やひきこもりを体験。人間関係を結ぶのが苦手。
- ▶ 立ちすくみ(自己実現追求)型:就職を前に考え込んでしまい、行き詰ってしまうタイプ  
大卒に多い。  
就職活動で自分らしい仕事を考えすぎて立ちすくむ。
- ▶ つまずき(自信喪失)型:いったんは就職したものの早々に辞め、自信を喪失したタイプ  
その後の職探しを躊躇する。

## ひきこもり支援の課題

- ▶ 現在の支援体系は、不登校・ひきこもり状態からの脱却で学校復帰や進学、就労をアウトカムとして想定している。
  - ①中間的・過渡的な集団での活動にはなんとか適応はできるが、実際の就労には踏み出せないという、ひきこもりでも社会的自立でもない群が存在している。
  - ②中間的・過渡的な集団に参加するに至らないまま個人的支援だけの参加、あるいはまったくそれも拒んで家庭にとどまるような、ひきこもり状態を続ける群も存在すると思われる。
- ▶ 若者あるいは診断名がつき、精神障害者保健福祉手帳や療育手帳などを取得していないと年金受給や就労等の支援はされない。
  - ①診断名がつかないままひきこもりが長期化し、支援を受けていないケースが多く存在すると思われる。
  - ②親の保護のもとでしか生活できず、親の高齢化に伴い経済的な負担や親亡きあとの問題が顕在化してきている。
- ▶ 社会的な活動からの回避が長期化し、社会生活の再開が著しく困難になっている。
  - ①家庭内暴力や退行、幻覚や妄想といった精神病症状など何らかの精神症状が顕在化し、家庭内の生活や人間関係が危機に瀕している可能性がある。
  - ②親の高齢化に伴い、社会との接点はさらに途絶え、家族は孤立している可能性がある。その結果として「虐待」や「孤独死」との関係性も否定できない。